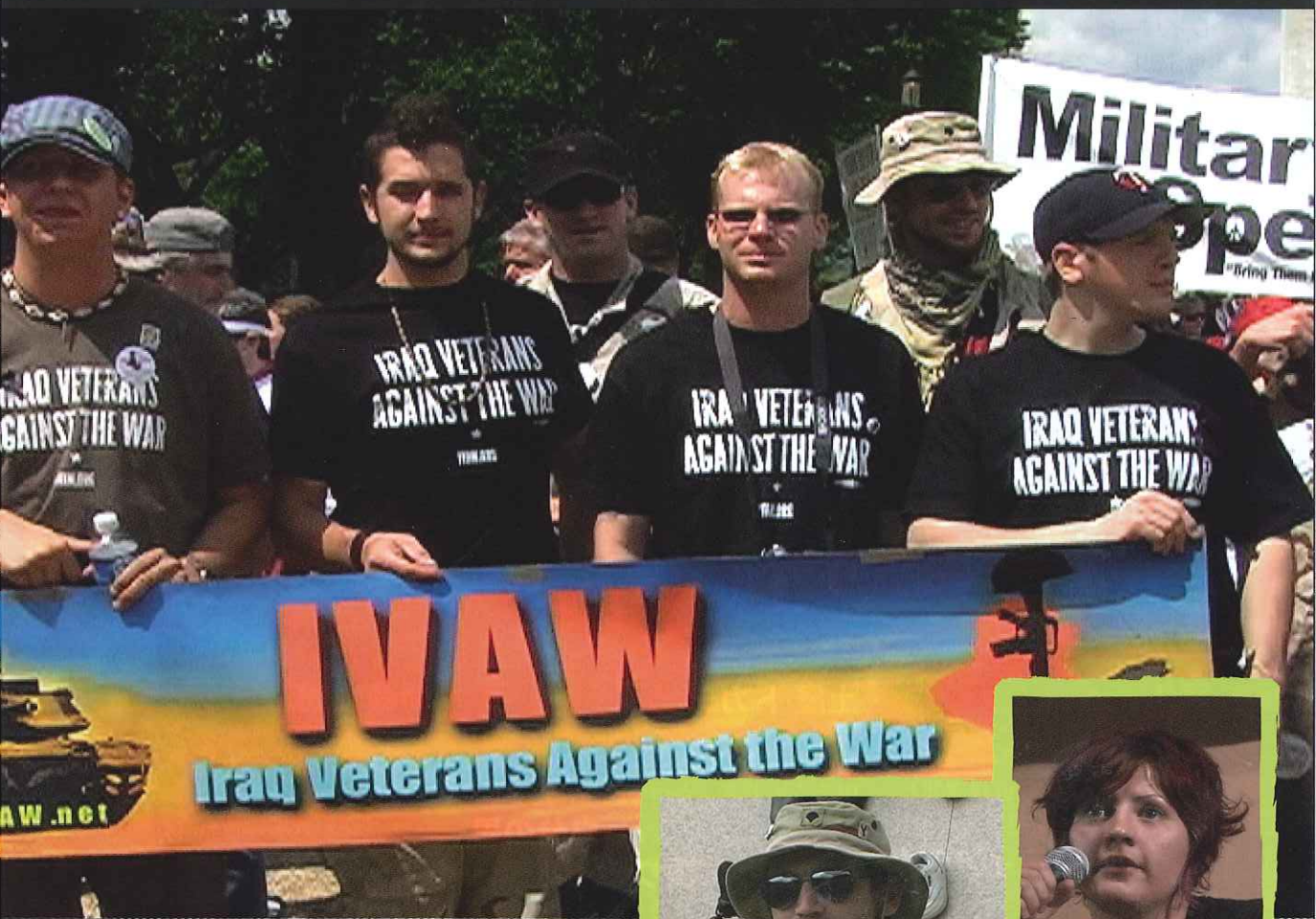


立ちあがる **IVAW** イラク帰還兵

—もう次の帰還兵の世代をつくらない—

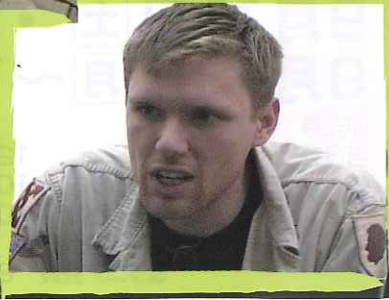
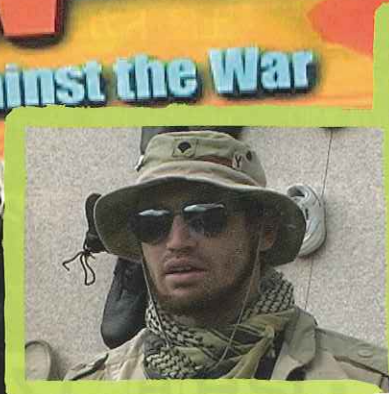
撮影・監修 ● 木村 修
編集 ● 飯田吉孝
制作協力 ● イラク平和テレビ局 in Japan
制作・配給 ● 衞マブイ・シネコープ



傷ついた帰還兵達がさしだす真実を、
今度は私たちが受け止め手渡してゆく。
どうか彼らの声を聞いて欲しい。
世界をつなぐ貴いバトンが
決して途切れないように。

堤 未果

(ジャーナリスト 「貧困大国アメリカ」 著者)



あなたも『テロとの戦争』を超える “人間と人間の連帯”の目撃者に

第Ⅰ部 アメリカ帰還兵・イラクに誓う

2009年3月、二人の元米軍兵士が占領の続くイラクへ旅だった。A・ヒューズとT.J. ブオノモ。イラクに向かう機中アaronはその張りつめた心境をこんなふう書きつづっている。『不安だ。不安が私の喉元に、心臓に居座っている』と。二人の青年をイラク再訪に駆り立てたのは何なのだろうか。二人はイラクの民衆を目前にどう自分を語るのか。そして初めて元米軍兵士の肉声を聞くイラクの人々は…。



この小編は二人のイラクでの全発言を現地でカメラに収めたものである。その中心部分は、シカゴの映像グループ、レイバービートによってケーブルテレビで放映され、日本でも『第1回戦争と貧困をなくす国際映像祭』(09年5月16日～23日)で上映され、大きな反響を呼んだ。『テロとの戦争』という暴力の嵐を越える、人間と人間の連帯の姿の目撃者に、今日ここに来られたあなたにも加わってほしい。

第Ⅱ部 戦争を拒否する兵士たち

日本政府も約600人の自衛隊員をイラク南部サマワに派兵した。しかし彼らの声が直接国民に届くことはない。米国の元兵士たちの反戦運動に直接触れてみよう。VFP(平和を求める退役軍人の会)の全国大会を訪ねた。

マイク・ファナー氏(VFP議長)、ジャン・バリー氏(反戦ベトナム帰還兵の会創設者)、アレックス・リャボフ君(反戦イラク帰還兵の会創設者)カミロ・メヒア君(同議長)の四人は、いずれも日本のスクリーンに初めて登場する『戦争を拒否する兵士たち』である。彼らは呼びかける。『国家の手段としての戦争の廃絶』を。それは『決してユートピアではない』んだと。戦場を経験した人々の平和への叫びがベトナム戦争から今日まで脈々と続く米国。マスコミからは見えないことのない、世代を越えた平和運動の歩みを初めてここに紹介する。



(有) マブイ・シネコープ Tel.06-6786-6485
2010年1月制作/ビデオ/60分

藤本 幸久

(映画「Marines Go Home」)

「アメリカばんざい」監督

イラクで、イラクの人々に直接謝罪し、連帯を訴えるアメリカ帰還兵の姿を目撃できるのは**民衆メディアの大きな成果**だ。

土屋 トカチ

(映画「フツの仕事をしたい」監督)

自立を求め、兵隊になったアメリカ貧困そうの若者。かつて民衆に銃を向けたことは間違いだったと**自分の思いを静かに語り始めた**。彼らがイラクの地を再訪し、「貧困の連鎖を断ち切りたい」と語る記録映像。彼らの思いとつながってこう。

伊藤 成彦

(中央大学名誉教授)

30分に満たない短編だが、どのシーンも目を放せない。中でも州兵を志願してイラクの戦場に送られ、帰還して反戦に目覚めた一青年がイラクの人々の前で謝罪しつつ、戦争を拒否し戦争を止めることを誓うシーンは**深い感動を呼ばずにはおかない**。

9月11日 土 ・ 12日 日 17:30～
9月13日 月 ～ 17日 金 18:00～

前売券：1000円

当日券：大人/学生

1200円

シニア・外国籍の方

1000円

シネ・ウインド会員

1000円

シネ・ウインド学生会員

&シニア会員

800円

新潟・市民映画館シネ・ウインド

〒950-0909

新潟市中央区八千代 2-1-1

電話 025-243-5530

ファクシミリ 025-243-5603

http://www.wingz.co.jp/cinewind/

至 新潟駅			
ラブラ	バス	新潟伊勢丹	
万代	センター		東港線
		シネ・ウインド	
		B・P1&2	
至 萬代橋			

新潟伊勢丹向け

万代シテイ第2駐車場1階

